

## 学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第 52 号	氏 名	藤崎 碧
審 査 委 員		主 査 氏 名	柳井博幸
		副 査 氏 名	大澤健司
		副 査 氏 名	丸山真杉
[論文題名]			
Antithrombin improves the maternal and neonatal outcomes but not the angiogenic factors in extremely growth-restricted fetuses at <28 weeks of gestation.			
Journal of Perinatal Medicine, 2016 Dec 3. accepted			
Midori Fujisaki, Ken Furuta, Masanao Ohhashi, Seishi Furukawa, Yuki Kodama, Yasuyuki Kawagoe, Hiroshi Sameshima, Tsutomu Ikenoue.			
[要 旨]			
<p>目的：先行研究である重症妊娠高血圧腎症による胎児発育不全 (severe FGR) に対し、Antithrombin (AT) 投与によって、胎児の健康を保つことができ、かつ34週以降まで妊娠期間を延長できたことを踏まえて、今回、妊娠高血圧症候群を伴わない28週未満に発症した severe FGR 症例を対象に、AT 投与が胎児の体重増加、新生児予後改善につながるかを前方視的に研究した。</p> <p>方法：妊娠高血圧症、妊娠高血圧腎症、慢性高血圧合併妊娠、膠原病合併のない28週未満の妊娠で、推定体重が5%以下の severe FGR 14症例を対象に、AT1500 単位3日間投与を行い、sFlt-1, GIGF などのマーカーを用いた前方視的研究が実施されている。</p> <p>結果：sFlt-1 血中濃度を元に Group 1 (n=4; &lt;2000 pg/ml)、Group 2 (n=3; 5,000-10,000 pg/ml)、Group 3 (n=7; &gt;10,000 pg/ml) に分けて検討したところ、Group 1 で、優位に他の Group よりも PlGF、妊娠延長期間、児推定体重増加量、とも高く、母体予後も良好であった。しかし、sFlt-1, GIGF, VEGF 濃度等の変化は認められなかった。</p> <p>結論：severe FGR でも sFlt-1 が&lt;2000 pg/ml の低値であれば、AT により母体、胎児予後を改善できる可能性があることを明らかにしている。</p>			